

生活の漢字

～外国人の漢字学習支援～

2020年1月18日(土)と2月1日(土)に、第1回ボランティアステップアップ学習会「生活の漢字～外国人の漢字学習支援～」を開催しました。今回は、一般財団法人ダイバーシティ研究所『「生活の漢字」をかंगाえる会』から講師をお迎えしました。『「生活の漢字」をかंगाえる会』は、大阪を拠点に2006年度から外国人のための漢字教室を開催しています。2日間で延べ43名が参加し、漢字学習支援の必要性、実践などを学習しました。



1日目は、地域日本語教室の役割や現状、課題などを教わりました。地域の日本語教室では、話すことや聞くことに重点が置かれ、読み書きは後回しにされがちです。「生活の漢字」とは文字通り、日本で生活するために必要な漢字を指します。実際に資料として配られた、日本の小学生が卒業までに習う漢字一覧を見ると、外国人が日常生活で必要とする漢字とはズレがあることが分かりました。また、話すことや聞くことに比べて、自然習得が難しいことから支援の大切さを学びました。

支援をする上で重要なのは、学習者が漢字に興味を持ち、自ら勉強したいと思えること、継続して勉強できることです。そのためには様々な工夫が必要です。それを踏まえて、教材作成の宿題が出されました。2日目はその宿題をもとに、グループに分かれて学習者と支援者のロールプレイングを行いました。他の参加者が工夫した点や、ロールプレイの中で気づいた改善点を共有することで、実際の学習支援で使える教材ができあがり、支援の際の注意点も体感することができたようです。

2日目の後半には、「生活の漢字」の学習者の、学習に対する意欲や漢字の読み書きができるようになった喜びなどの感想が紹介されました。自分の子どもの名前を初めて漢字で書けるようになった学習者は、自分を誇りに思うと話したそうです。



た学習者は、自分を誇りに思うと話したそうです。

参加者からは、「基本の書き順を押さえておくと、後の漢字学習が効率的であることを知り、大変勉強になった。」「教えるというよりは、共に学ぶというスタンスが大切であることを再認識した。」等の感想が寄せられました。今回の学習会を、今後の日本語学習支援に活かしていただければと思います。